日清丸紅飼料株式会社　会社案内

Corporate Profile

食の絆を未来へ

私たちは飼料を通じて
安全・安心な食生活をサポートします。

代表取締役社長
宮内 和広
MIYAUCHI KAZUHIRO

アジア諸国の経済発展や世界的な人口増加により、配合飼料の需要は今後も伸びることが予想されます。わが国では配合飼料原料の大半を海外に依存していることから、国内畜産業・水産業を守るために安定的な原料確保が求められております。このような国際環境に柔軟に対応し、お客様のニーズにお応えするために何をすべきか、社員一同で意見を出し合い答えを見つけていきたいと思います。また、食に対する消費者の意識は今後も高まっていくことが予想されます。こうした消費者のニーズに応えられる高品質な製品をお客様にお届けし、国内畜産業・水産業がより一層発展できるよう、全社で業務に邁進してまいります。

Our Vis

私たちは食品の安全性の確保に寄与し、信頼性の高い企業として社会に貢献します。

経営理念

日清丸紅飼料は、食文化の一翼を担う企業として、安全・安心で高品質な飼料及び関連商品の生産・販売を行うとともに、コンプライアンスを徹底し「食品の安全性の確保」に寄与する。また、経済合理性の追求とサービスの提供を通じて顧客と共に繁栄することにより、常に成長志向を持ち続け、信頼性の高い企業として「社会に貢献」する。

経営ビジョン

「食」の課題に取り組み持続可能な豊かな社会づくりに貢献する。
環境・社会・ガバナンスを重視し、生産技術の改良とともに新製品の開発、新市場の開拓、新資源の獲得、組織・制度の改革=イノベーションを繰り返し成長を続ける。

重要経営課題

- 現場主義の徹底
- 生産・販売・技術・管理が一体となり、顧客ニーズに合った製品・サービスの提供
- ESG経営を通じた、企業の持続可能性の追求
- コンプライアンスの徹底

重要社会課題

- 畜水産業界の持続的発展
- 安全・安心な食料生産の維持
- 地球環境保護・持続可能な社会への貢献

Sustainability

食の絆を未来へ繋げ、
持続可能で豊かな社会づくりに
貢献してまいります。

サステナビリティ方針

「サステナビリティ上の重要課題（マテリアリティ）」の取り組みを通じて、持続的な企業価値向上に向けた取り組みを推進するとともに、お取引先・株主・従業員、そして地球環境というマルチステークホルダーの皆さまから信頼される企業として、畜産・水産用配合飼料のビジネスを更に発展させ、食の未来を築いてまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Sustainabi

日清丸紅飼料のサステナビリティはこちら >

マテリアリティ

サーキュラーエコノミーに配慮した資源活用

耕畜連携や飼料資源循環の取り組み、気候変動対策、天然海洋資源の保全活動等、環境問題に取り組んでいます。

飼養管理システムによるスマート畜産化

農場現場でのIoT活用

農場現場での作業効率化のため、飼料タンク残量の見える化や飼養管理システムの導入など、スマート畜産化に取り組んでいます。

鶏糞堆肥を用いたトウモロコシの栽培試験

耕畜連携

家畜排せつ物を付加価値の高い堆肥に生まれ変わらせ、その堆肥を用いて穀類を生産し、飼料原料にする耕畜循環の仕組みづくりに取り組んでいます。

鹿島工場に設置された太陽光パネル

CO_2削減、省エネに向けた取り組み

2050年までにCO_2排出量0%を目標に設定し、太陽光パネルの設置や生産現場のロス削減に取り組んでいます。

水産技術研究所

水産資源の保全

持続可能な養殖業実現のため、動物性原料や次世代タンパク原料を利用した、魚粉に依存しない低魚粉飼料の開発を行っています。

人々の豊かな暮らしの実現に向けた取り組み

福利厚生や研修制度を充実させ、仕事と生活の調和が可能な職場環境の構築を目指します。
また、未来の食を担う学生に食育活動を行い、人々の食生活に貢献します。

コーポレートガバナンスの取り組み

法令・規則や社内規程を遵守し、企業倫理に適った企業活動を行います。
また、コンプライアンス委員会を設置し、適切なコンプライアンスの実践につとめています。

Livestock and poultry feed business

畜産飼料事業

各畜種に最適な飼料設計を行い、安全・安心な飼料製造に取り組んでおります。農場へ供給後は課題解決や生産目標達成のためお客様と共に飼養方法を検討します。

Livestock a
poultry

撮影協力（株）森ファーム

日清丸紅飼料の畜産飼料事業はこちら >

製品紹介

養牛用飼料

当社独自の製造技術と最新の栄養知見に基づき、生産性と経済性のニーズにお応えできるよう、肉牛の品種や産地に合わせた豊富な製品を取り揃えています。

養豚用飼料

生後間もない子豚を効率良く育成飼育し、市場性の高い赤肉に仕上げます。発育ステージごとに必要な栄養量を考慮し、ご希望にお応えする幅広い銘柄を取り揃えています。

採卵鶏用飼料

鶏種の育種改良に合わせて、鶏の性能を十分に引き出すための生産効率の良い飼料を提供し、消費者が安心できる品質の高い鶏卵の生産を可能とします。

肉用鶏用飼料

インテグレーターの生産性向上のため、原種鶏（チャンキー種）の育種改良の動向を考慮し、鶏種の特性を最大限に引き出す配合飼料をご提案します。また、飼料の使い方についても生産現場での生産管理のサポートを行い、生産効率の向上を図ります。

事業紹介

農場サポート

お客様の農場成績向上のため、畜種ごとの専門知識を持つ営業担当が訪問し、飼養方法のご相談に応じます。「現場主義」を徹底し、農場環境や管理状況に応じた飼養管理マニュアルの作成とご提案を行います。お客様の生産性向上とコスト削減に向け、迅速に課題解決に取り組みます。

飼養管理サポート × 飼料検討 × 経営診断

MN-Porker

日清丸紅飼料株式会社　Eco-Pork

現場生産者の負担を軽減すべく、オンライン型養豚経営支援システムとしてMN-Porkerを開発。スマート農業化は持続可能な畜産業を促進します。

種豚事業

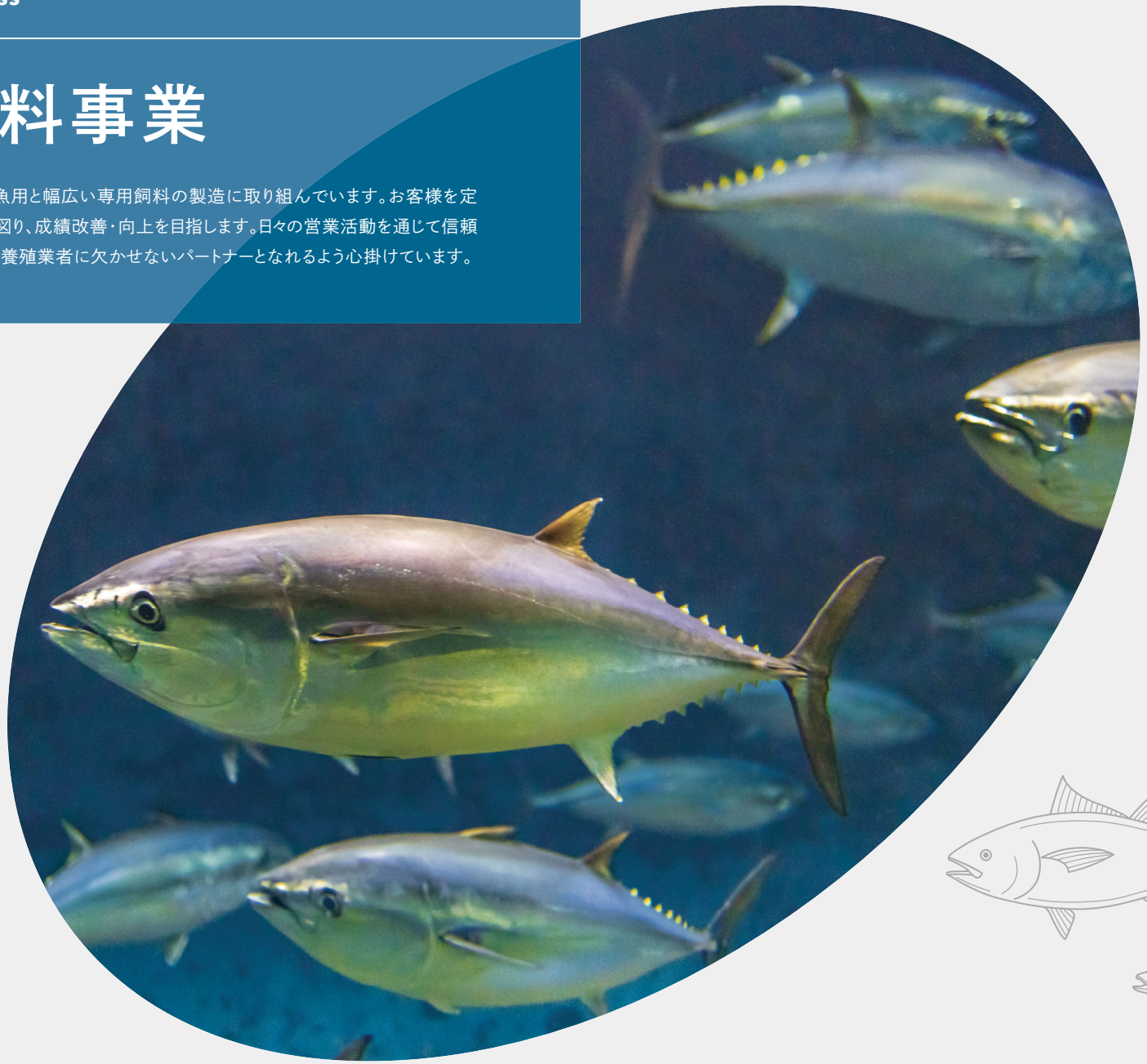
当社は高能力種豚PIQUA（ピクア）の総代理店として、種豚事業を通じて養豚生産者の皆さまの経営に貢献してまいります。PIQUAは繁殖能力に優れるとともに、生産された肉豚は良好な増体を示し、安定した品質の枝肉生産が期待できます。強健性・連産性に富み、飼料要求率に優れ、性質も温順な種雌豚です。生産は当社関係会社であるピクアジェネティクス（株）が担っています。

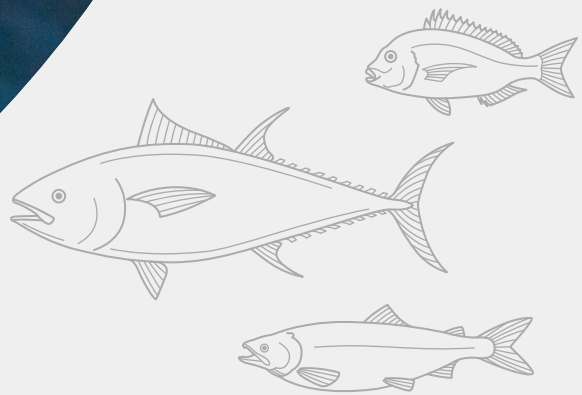
PIQUA®
PIQUA GENETICS Co.,Ltd.

Aquafeed business

水産飼料事業

海産仔稚魚、海水魚、淡水魚用と幅広い専用飼料の製造に取り組んでいます。お客様を定期的に巡回して課題解決を図り、成績改善・向上を目指します。日々の営業活動を通じて信頼関係を構築し、お客様である養殖業者に欠かせないパートナーとなれるよう心掛けています。





Aqua

日清丸紅飼料の水産飼料事業はこちら >

製品紹介

種苗生産用飼料 おとひめシリーズ

海産仔稚魚用飼料として高い嗜好性と飼育水を汚しにくい特殊な飼料形態で、全国の種苗生産施設や研究機関で愛用され高い評価を得ています。厳選された原料と栄養価を損なうことの少ない造粒技術で造られた顆粒やEPは高い生産効率と健康維持が期待できます。

海水魚用飼料 クロマグロ用飼料

鮪心（まごころ）・シーダイヤ・ジャイアントツナEP

人工孵化・天然種苗導入から成魚の出荷までクロマグロ養殖の一貫生産で使用できる配合飼料です。

淡水魚用飼料 イトメイト

シラス餌付で成長に不可欠な栄養素を贅沢に使用したペースト状の飼料です。シラス1尾の重要性が年々高くなる中、“群”を見る現場的視点に“個”を見る研究所的視点を加えた配合設計により、高い成長性と餌付き率を両立します。

ピアゴールド

マダイ・ブリなどの海産稚魚の移動時・降雨時などのストレス対策として、新しく開発した天然の植物多糖体を含む栄養強化飼料であり、海産稚魚の種苗生産、沖出し用等として使用されます。

事業紹介

低魚粉・無魚粉飼料の開発

世界的に問題となっている人口増加・海洋資源の枯渇から魚粉の原料の資源量は減少傾向にあり、禁漁や漁獲制限による資源管理が不可欠となります。当社の取り組みとして再生可能な未利用原料を使った低・無魚粉飼料の開発技術を応用し、持続可能な水産業を目指しています。

低魚粉飼料で飼育したブリ

水産技術研究所の海上生簀

ギンザケ養殖事業

アメリカのシアトルで生産されている優良系統の発眼卵を輸入し、国内淡水種苗業者に販売。淡水飼育された優秀な種苗を買い取り、海面生産者へ販売しています。通常の飼料販売・技術指導に加え、一貫生産に関わる活動を通して、ギンザケ養殖の発展に寄与しています。

ギンザケの発眼卵

ギンザケの出荷作業

feed

Food business

食料事業

品質へのこだわりをもって、家庭用から業務用まで幅広く鶏卵商品を取り揃えています。
鶏卵商品の他、循環型農業への取り組みとして、畜糞を利用したブランド堆肥の開発も
おこなっております。

Food busi

日清丸紅飼料の食料事業はこちら >

商品紹介

ほほえみたまご

安全・良質な卵で、お客様の食卓にほほえみをお届けします。

京都のビタミンたまご

卵に含まれている栄養成分のうち、ビタミンEが豊富に含まれた京都産の卵です。やさしいピンク色が特徴です。

業務用鶏卵商品（箱・シュリンクパック）

全国各地のニーズに合わせた鶏卵商品や業務用鶏卵商品（箱・シュリンクパック）、液卵・凍結卵商品も取り扱っております。

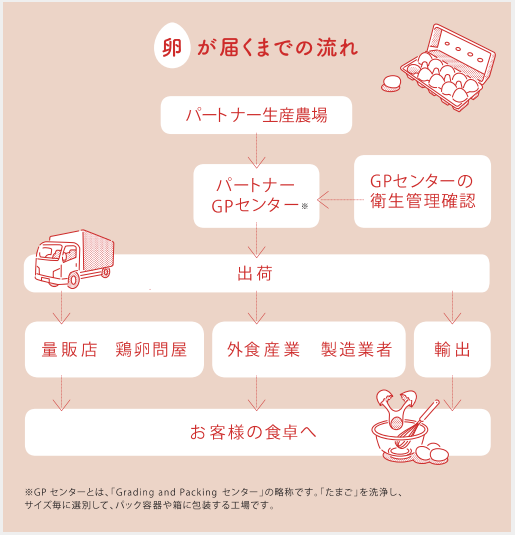
「べに華」シリーズ

牛、豚、鶏など畜産農家の畜糞を原料とした堆肥製品を日清丸紅飼料ブランドとして企画し、国内外に販売しています。

事業紹介

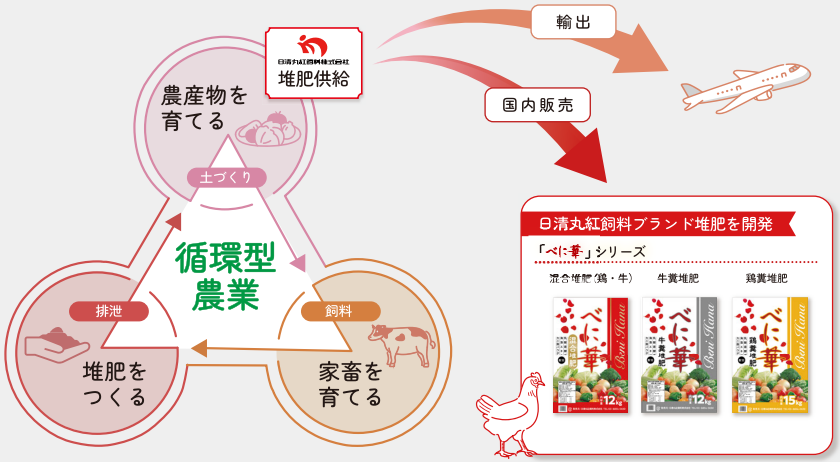
鶏卵事業 −大地から食卓へ−

日本には、鶏卵を生食するという世界でも珍しい食文化があります。それには徹底した品質管理が必要です。当社は食に携わる企業として、消費者の皆様のご期待に添えるよう、食の安全に向けて取り組みを一層強化してまいります。



環境事業

当社は、畜糞堆肥を販売することにより、循環型農業のモデル構築を目指しています。堆肥を用いることで、土壌を健康で豊かにします。



Technology development

技術開発

独創的で競争力のある製品・生産プログラムの開発とそれらを活用した広範囲の技術支援を通じて、お客様の経営・利益への貢献を目指しています。

Techno

日清丸紅飼料の技術開発はこちら >

総合研究所

総合研究所は畜種毎の開発4グループと検査グループから構成されます。開発4グループ（養豚、養牛、レイヤー、ブロイラー）では、各畜種の栄養・生理・原料・飼料設計・畜産物差別化などに関する試験研究を行い、それに基づいて飼料やミックス製品の開発・改良を行っています。検査グループは病理チームと理化学チームから成り、病理チームでは、お客様から依頼される家畜家禽の疾病検査（家畜の健康診断「システムパック」を含む）や自社製品の微生物汚染管理のための検査を行っています。理化学チームでは配合飼料及び原料の栄養成分や有害物質の分析を行っています。

水産技術研究所

2024年8月、水産研究所は愛知県から鹿児島県へ移転、水産技術研究所と名称も改め、より優れた飼料開発に必要な最新施設・設備を導入して研究を行い、海面・陸上養殖施設も整備しました。日本における養殖対象魚であるブリやマダイ、クロマグロなどの種苗生産から成魚仕上・出荷に至るまで、全ての期間において利用可能な配合飼料の開発はもとより、国内外で新たに養殖される魚種に対しても配合飼料化に向けた飼育試験を積極的に行い、未来の新しい飼料の研究開発を行っています。

当社独自の技術力

ハーブ技術

当社では、いち早くハーブを活用した医食同源の考え方に注目し、飼料の開発に取り入れてきました。ハーブの力を健康でおいしい畜水産物の生産に生かしています。ハーブ技術は当社が得意とする分野であり、複数の特許も取得しています。

幼動物用飼料技術

当社独自の製造技術と原料、設計ノウハウを駆使した子牛用代用乳飼料、子豚用人工乳飼料を開発しています。子豚や子牛達が喜んで食いつきばくばく食べて、健康で丈夫に育つよう、栄養・生理・嗜好性を考えた原料や成分を配合しました。

ミックス製品技術

ミックス製品は食品でいうサプリメントのような製品です。当社では長年にわたる開発で独自のノウハウを蓄積しています。栄養補給・ストレス対策・繁殖改善・畜産物差別化など、目的に応じた幅広い製品でお客様の要望にお応えします。

Safety management system

安全・安心への取り組み

品質保証宣言

日清丸紅飼料では「食の絆を未来へ」をキーワードに、独自の品質管理体制による安全な配合飼料の製造・供給を通じ、フードチェーンの一員として食の安全性確保に貢献致します。

飼料安全方針

当社は飼料の安全を経営の最重要課題と考え、次の方針に基づき事業活動を行います。

1. フードチェーンを構成する一員である飼料製造業者として、より高度に安全で品質の良い配合飼料を常に製造・供給することを第一と考え、我が国の畜水産物生産者の発展、消費者の健康及び環境への配慮に貢献致します。
2. 飼料安全を確実にするため、飼料安全法をはじめとするあらゆる法的・規制要求事項や飼料等の適正製造規範（GMP）ガイドラインを順守するとともに、お客様の高度な飼料安全・安心に関する要求を満たす製品及びサービスを継続的に提供致します。
3. 飼料の安全に関する正確な情報をお客様にご提供するために、当社各部門において、お客様、原料及び資材の供給元、製品供給先、行政機関等の関係者の皆様と常に親密な対話を行い、様々な課題に積極的に取り組みます。また、苦情発生情報などの収集・分析を行い、お客様の要求事項を把握し、製品品質・サービスの向上と予防・再発防止に努めます。
4. またBCPの観点から、自然災害（台風、洪水、大地震）による被害や、火災、停電などの緊急事態対応にも取り組みます。
5. これらの安全方針を確実に実行するため、社内において研修などの社員教育を定期的に実施し、従業者の力量を向上させるとともに、社外に周知するための広報活動などを確実に実施致します。
6. この飼料安全マネジメントシステム（FeSMS）及びFSSC システムが確実に機能するよう、マネジメントシステム全体と実際の業務運用におけるPDCAサイクルに沿って適宜検証、分析・評価し、マネジメントレビューを行い、継続的に改善致します。

Safety manage

日清丸紅飼料の安全・安心への取り組みはこちら >

全国の生産拠点全てにおいて、安全・安心に向けた生産体制の維持・増強を進めています。

ISO22000の取得について

国際基準で守る、食の安全

日清丸紅飼料は、2013年5月28日、国内の配合飼料メーカーとして初めて、食品安全に関するマネジメントシステムの国際規格、ISO22000を全社で取得しました。

品質保証・品質管理

確かな品質管理で築く、食への信頼

食の安全性がますます重要になってきている中で、当社は食品の安全性確保への寄与を経営理念とし、ISO22000を軸とした全社一体となった品質保証体制を敷いています。

全社で統一したシステムの運用・管理を行うことにより、原料の多様化・多産地化に伴い増大するリスクや、年々関心が高まる食への安全性に、一体となって対応することが可能となります。フードチェーンの一端を担う配合飼料メーカーとして、日清丸紅飼料は、より安全で高品質な飼料を畜産・養殖現場にお届けし、今後ますます食の安全性確保に貢献してまいります。

JUSE REGISTERED FIRM
ISO22000
JUSE-FS-066

JAB
MS
CM008

各工場では品質保証課を配置し、原料や製品の品質確認のほか、サンプルや製造記録等の保持による、確実なトレーサビリティ体制の維持に努めています。また、品質保証課は品質管理業務のほか、ISOを推進する役目を担っており、製品の品質維持・向上に多方面から貢献しています。

鹿児島工場

防鳥ネット

消毒槽

脱臭装置

2025年4月時点

会社概要

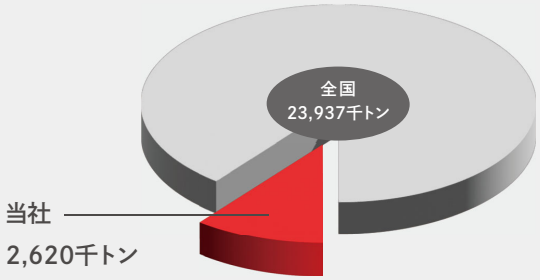
商号	：	日清丸紅飼料株式会社（英文社名：MARUBENI NISSHIN FEED CO.,LTD）
設立	：	1957年8月1日
資本金	：	55億円
代表者	：	代表取締役社長　宮内 和広
従業員数	：	575名（2025年4月現在）
決算期	：	3月
主な株主	：	丸紅株式会社 株式会社日清製粉グループ本社
主な金融取引機関	：	みずほ銀行他
本社所在地	：	103-0022 東京都中央区日本橋室町四丁目5番1号 さくら室町ビル4階 電話 (03)5201-3230

事業内容

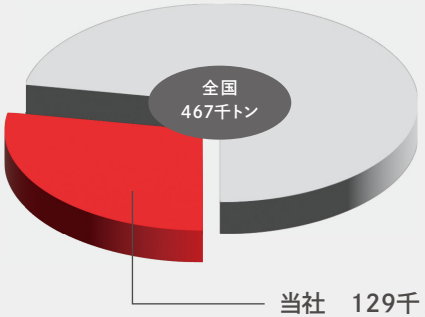
- 畜水産用の配合飼料製造販売
- 高能力種豚事業
- 畜水産物事業
- 家畜診療業務
- 鶏卵事業
- 環境事業
- その他

日清丸紅飼料のシェア（2023年度配混合飼料数量）

畜産用配混合飼料（生産数量） 商系※トップクラス



水産用配合飼料（生産数量） 業界トップクラス



※商系：商系飼料メーカー（組合系を除く飼料メーカー）（注：全国数量について 畜産用配合飼料は農林水産省データより、水産用配合飼料は（社）日本養魚飼料協会の統計より）

2025年4月時点

事業所一覧

		〒	住所	TEL	FAX
本社		103-0022	東京都中央区日本橋室町4-5-1 さくら室町ビル4F	03-5201-3230	03-5201-1324
畜産本部					
総合研究所		329-2763	栃木県那須塩原市井口1242-5	0287-37-2111	0287-37-4506
北海道支店					
	畜産営業課	047-0041	北海道小樽市手宮1-1-1	0134-34-2363	0134-22-5194
	大動物営業課	080-0010	北海道帯広市大通南12-20 あおば十勝ビル6F	0155-27-0811	0155-27-0812
	小樽工場	047-0041	北海道小樽市手宮1-1-1	0134-23-7381	0134-33-3949
東北支店					
	畜産営業課	980-0021	宮城県仙台市青葉区中央4-10-3 JMFビル仙台01 9F	022-217-9766	022-217-9776
	大動物営業課	031-0075	青森県八戸市内丸1-6-24 Nビル3FB号	0178-73-5582	0178-45-3456
関東支店					
	畜産営業課	314-0103	茨城県神栖市東深芝2-5	0299-92-4981	0299-92-4986
	大動物営業課	314-0103	茨城県神栖市東深芝2-5	0299-92-4981	0299-92-4986
	鹿島工場	314-0103	茨城県神栖市東深芝2-5	0299-92-4991	0299-92-4482
中部支店					
	畜産営業課	447-0834	愛知県碧南市玉津浦町2-3	0566-42-2821	0566-42-2829
	大動物営業課	447-0834	愛知県碧南市玉津浦町2-3	0566-42-2821	0566-42-2829
	碧南工場	447-0834	愛知県碧南市玉津浦町2-3	0566-42-4811	0566-48-4452
知多工場		478-8501	愛知県知多市北浜町12	0562-32-4131	0562-33-0371
西部支店					
	畜産営業課	710-0057	岡山県倉敷市昭和2-4-14竹富ビル6F	086-442-8880	086-442-8884
	大動物営業課	710-0057	岡山県倉敷市昭和2-4-14竹富ビル6F	086-442-8880	086-442-8884
九州支店					
	畜産営業第一課	891-0122	鹿児島県鹿児島市南栄4-22	099-269-1661	099-268-8084
	畜産営業第二課	812-0016	福岡県福岡市博多区博多駅南1-8-31 九州ビル2F	092-433-8210	092-433-8214
	大動物営業第一課	891-0122	鹿児島県鹿児島市南栄4-22	099-269-1661	099-268-8084
	大動物営業第二課	812-0016	福岡県福岡市博多区博多駅南1-8-31 九州ビル2F	092-433-8210	092-433-8214
	鹿児島工場	891-0122	鹿児島県鹿児島市南栄4-22	099-269-1711	099-267-2044

		〒	住所	TEL	FAX
水産本部					
水産技術研究所		897-1301	鹿児島県南さつま市笠沙町片浦14847番地1	0993-76-8899	0993-76-8896
東日本水産営業部					
	営業課	980-0021	宮城県仙台市青葉区中央4-10-3 JMFビル仙台01 9F	022-217-0567	022-217-0577
中部水産営業部					
	営業課	478-8501	愛知県知多市北浜町12	0562-39-2200	0562-32-3796
	知多水産工場	478-8501	愛知県知多市北浜町12	0562-32-4131	0562-33-0371
西部水産営業部					
	営業課	798-0087	愛媛県宇和島市坂下津甲381番地130	0895-68-0210	0895-24-5395
九州水産営業部					
	営業課	891-0122	鹿児島県鹿児島市南栄4-22	099-269-1661	099-268-8084
	鹿児島水産工場	891-0122	鹿児島県鹿児島市南栄4-22	099-269-1711	099-267-2044
食料本部					
食料営業部	東日本営業課 事業開発課	103-0022	東京都中央区日本橋室町4-5-1 さくら室町ビル4F	03-6848-7310	03-6854-0009
	東日本営業課 下妻オフィス	304-0063	茨城県下妻市小野子町1-77 共栄ビル2F	0296-30-7701	0296-30-7704
	西日本営業課	650-0032	兵庫県神戸市中央区伊藤町119 大樹生命神戸三宮ビル6F	078-325-1650	078-325-1655
	九州営業課	820-0040	福岡県飯塚市吉原町6-1 あいタウン4F	0948-43-4330	0948-43-4345
ジョイントベンチャー(JV)工場					
新北海道飼料株式会社		059-1373	北海道苫小牧市真砂町35番地21	0144-56-0331	0144-56-0337
とかち飼料株式会社		089-2605	北海道広尾郡広尾町会所前6-5-3	01558-2-0301	01558-2-0302
みちのく飼料株式会社		039-1161	青森県八戸市大字河原木字海岸24-9	0178-21-3353	0178-29-1300
釜石飼料株式会社		026-0011	岩手県釜石市港町2-1-1	0193-22-6161	0193-22-6160
株式会社日本ミルクリプレイサー		314-0103	茨城県神栖市東深芝2-14	0299-93-4277	0299-93-4281
株式会社ジャパンフィード		314-0103	茨城県神栖市東深芝2-11	0299-93-1611	0299-93-1618
まきば飼料株式会社		314-0103	茨城県神栖市東深芝2-12	0299-93-1511	0299-93-1518
西日本飼料株式会社		712-8071	岡山県倉敷市水島海岸通3-6-3	086-444-2400	086-444-2300
八代飼料株式会社		866-0034	熊本県八代市新港町3-9-14	0965-37-3650	0965-37-3431
関係会社					
日清丸紅(天津)飼料科技有限公司		中華人民共和国天津市西青経済技術開発区盛達一支路1号A1座廠房		+86-22-5832-1920	
MNファーム株式会社		103-0022	東京都中央区日本橋室町4-5-1 さくら室町ビル4F	03-5201-3291	03-5201-1324
ピクアジェネティクス株式会社		103-0022	東京都中央区日本橋室町4-5-1 さくら室町ビル4F	03-5201-3290	03-5201-1325
中日本大洋飼料株式会社		478-8501	愛知県知多市北浜町12	0562-32-0811	0562-32-3796
有限会社輝北ファーム		899-8512	鹿児島県鹿屋市輝北町諏訪原545	099-485-1700	099-485-1561
株式会社いわて清流ファーム		029-2501	岩手県気仙郡住田町上有住字新田94-143	0192-48-3251	0192-48-3010

日清丸紅飼料株式会社
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 4-5-1 さくら室町ビル 4F
TEL 03-5201-3230 FAX 03-5201-1324

ホームページではさらに詳しい
< 情報を掲載しています
https://www.mn-feed.com/

© 2025 Marubeni Nisshin Feed Co.,Ltd. All Rights Reserved. 禁無断転用・転載